
腎不全という名のスティグマ

富樫 賢

あきた 腎・膠原病・リウマチクリニック

Is renal failure a stigma?

Masaru Togashi

Akita Renal and Collagen and Rheumatic disease Clinic

<緒言>

慢性腎臓病・慢性腎不全は、疾患の慢性的性質とその管理の複雑さにより、患者に心理的・社会的負担を強いることが知られている。近年、さまざまな病名に対して否定的な印象や偏見（スティグマ）を与える可能性が指摘され、病名変更が考えられている¹⁾。本研究は、慢性腎不全患者が病名に対してスティグマを感じているか、またどのようなスティグマを感じているかを明らかにし、病名変更の必要性について検討することを目的として行われた。

<対象と方法>

オンラインリサーチサービスFreeasyを用いてスクリーニングした5,000名のうち、慢性腎不全で通院中の患者は6.02%の301名（腎硬化症50例、糖尿病性腎症68例、IgA腎症37例、膜性腎症13例、巣状分節性糸球体硬化症24例、その他43例、病名不明66例）から絞り込み、最終的に有効回答者95名のデータを分析対象とした。質問内容は糖尿病に対してのスティグマ評価尺度であるDSAS-2（Type-2 Diabetes Stigma Assessment Scale²⁾（表1）を日本語に翻訳後、「糖尿病」を「慢性腎不全」に変更し、一部表現を修正して用いた。「異なる扱い（社会的スティグマ）」「非難と審判（乖離的スティグマ）」「セルフスティグマ」についてそれぞれ評価した。収集データの統計解析にはJMP 18.1.1を用いた。

<結果>

アンケートに回答した慢性腎不全患者の背景は（表2）に示す。回答者の多くは、「慢性腎不全」という病名に対して否定的な印象を抱いていた（89.5%）。また、約半数が病名の変更を希望しており（50.5%）、特に病名に対して悪い印象を持つ患者ほど、病名変更を希望する傾向が強かった（ $P<0.001$, Pearson's chi-square test）（表3）（図1）。

DSAS-2を用いたスティグマの評価では、多くの患者が社会的スティグマおよびセルフスティグマを強く感じており、特に「慢性腎不全という病名が原因で自分を責めてしまう」「自分は十分でないと感じる」「他人から劣っているとみなされる」といった項目で肯定的回答が多く得られた（図2、図3）。

表 1 改変DSAS-2

<p>Some people think I cannot fulfill my responsibilities (e.g., work, family) because I have type 2 diabetes</p> <p>Some people treat me like I'm "sick" or "ill" because I have type 2 diabetes</p> <p>Some people see me as a lesser person because I have type 2 diabetes</p> <p>Some people exclude me from social occasions that involve food/drink they think I shouldn't have</p> <p>I have been discriminated against in the workplace because of my type 2 diabetes</p> <p>I have been rejected by others (e.g., friends, colleagues, romantic partners) because of my type 2 diabetes</p> <p>I have been told that I brought my type 2 diabetes on myself</p> <p>There is blame and shame surrounding type 2 diabetes</p> <p>Because I have type 2 diabetes, some people judge me for my food choices</p> <p>Health professionals think that people with type 2 diabetes don't know how to take care of themselves</p> <p>Because of my type 2 diabetes, health professionals have made negative judgments about me</p> <p>There is a negative stigma about type 2 diabetes being a "lifestyle disease"</p> <p>Because I have type 2 diabetes, some people assume I must be overweight, or have been in the past</p> <p>I feel embarrassed in social situations because of my type 2 diabetes</p> <p>I'm ashamed of having type 2 diabetes</p> <p>I blame myself for having type 2 diabetes</p> <p>Because I have type 2 diabetes, I feel like I am not good enough</p> <p>Having type 2 diabetes makes me feel like a failure</p> <p>I feel guilty for having type 2 diabetes</p>	<p>私が 慢性腎不全 であるために、仕事・家庭などの責任を果たせないと思っている人がいる</p> <p>私が 慢性腎不全 であることを理由に「病気」または「病弱」であるかのように扱う人がいる</p> <p>慢性腎不全 であることを理由に、私が劣っているとみなす人がいる</p> <p>私が食べてはいけないと思う食べ物や飲み物を伴う社交の場から、私を排除する人がいる</p> <p>慢性腎不全 であることを理由に、職場で差別されたことがある</p> <p>慢性腎不全 であることを理由に、他人（友人・同僚・恋愛相手など）から拒絶されたことがある</p> <p>慢性腎不全 は自分のせいだと言われたことがある</p> <p>慢性腎不全 にまつわる非難や羞恥心がある</p> <p>私が 慢性腎不全 であるため、食事の選択について私を批判する人がいる</p> <p>医療従事者は、慢性腎不全 の人は自分の体のケアの仕方を知らないと考えている</p> <p>慢性腎不全 のせいで、医療従事者は私について否定的な判断を下している</p> <p>慢性腎不全 は「生活習慣病」であるという否定的な偏見がある</p> <p>私が 慢性腎不全 であるため、私が太っているに違いない、あるいは過去に太っていたに違いないと考える人がいる</p> <p>慢性腎不全 のせいで、パーティーや会合で恥ずかしい思いをする</p> <p>慢性腎不全 であることを恥ずかしいと思う</p> <p>慢性腎不全 であることで自分を責めてしまう</p> <p>慢性腎不全 であるため、自分は十分でないと感じる</p> <p>慢性腎不全 であることで、自分はダメな人間だと感じる</p> <p>慢性腎不全 であることに罪悪感がある</p>
<p>異なる扱い（社会的スティグマ）</p> <p>非難と審判（乖離的スティグマ）</p> <p>セルフスティグマ</p>	<p>強く同意 同意 反対 強く反対</p> <p>Browne JL. Et al. Diabetes care. 2016</p>

表 2 アンケート回答者の背景

年齢 (%)	中央値 41 y.o.	職業 (%) 抜粋	
20代	13.7	正社員	69.5
30代	28.4	経営者	8.4
40代	31.6	業種 (%) 抜粋	
50代	17.9	製造業	46.3
60代以上	8.4	サービス業	10.5
性別 (%)		医療・福祉	2.1
男性	71.6	都道府県	東京 22.1%など
女性	28.4	世帯年収	さまざま
結婚 (%)		居住形態	持ち家 63.2%
未婚	31.6	子供の有無	あり 69.5%
既婚	68.4		

表 3 病名印象と変更の必要性の回答

(n)		病名についての印象が			
病名を	変更	大変悪い	悪い	良い	大変良い
		15	30	3	0
病名を	このまま	大変悪い	悪い	良い	大変良い
		2	33	6	1

$P < 0.001$ Pearson's chi-square test

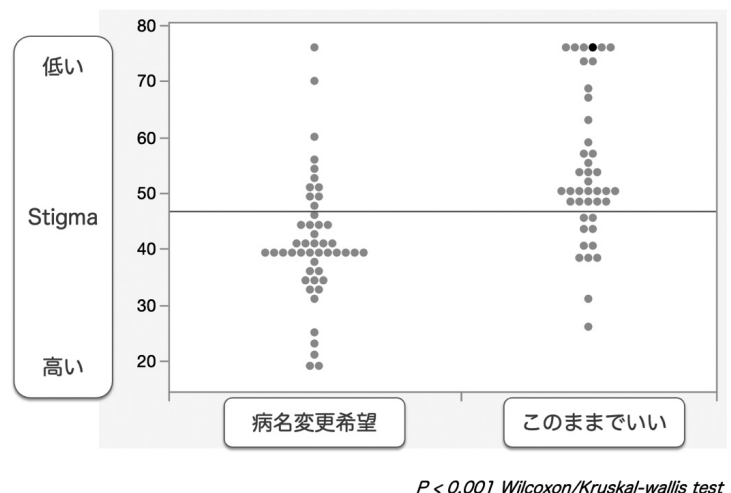


図 1 スティグマのスコアと病名変更希望の関係

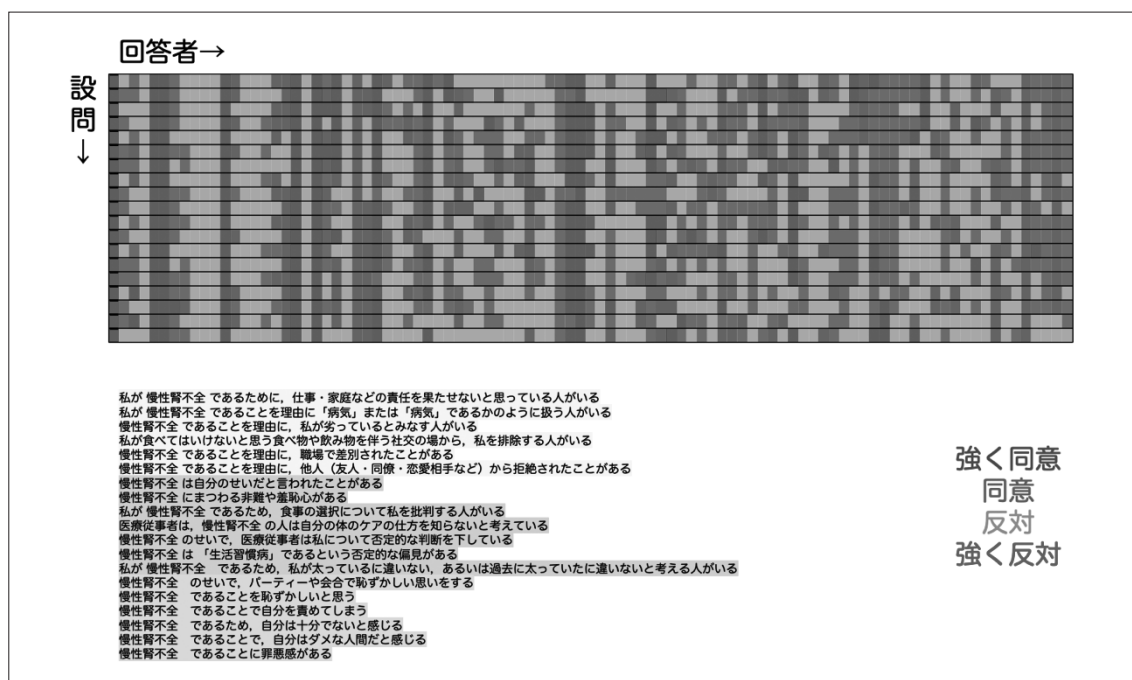


図2 各設問毎の回答

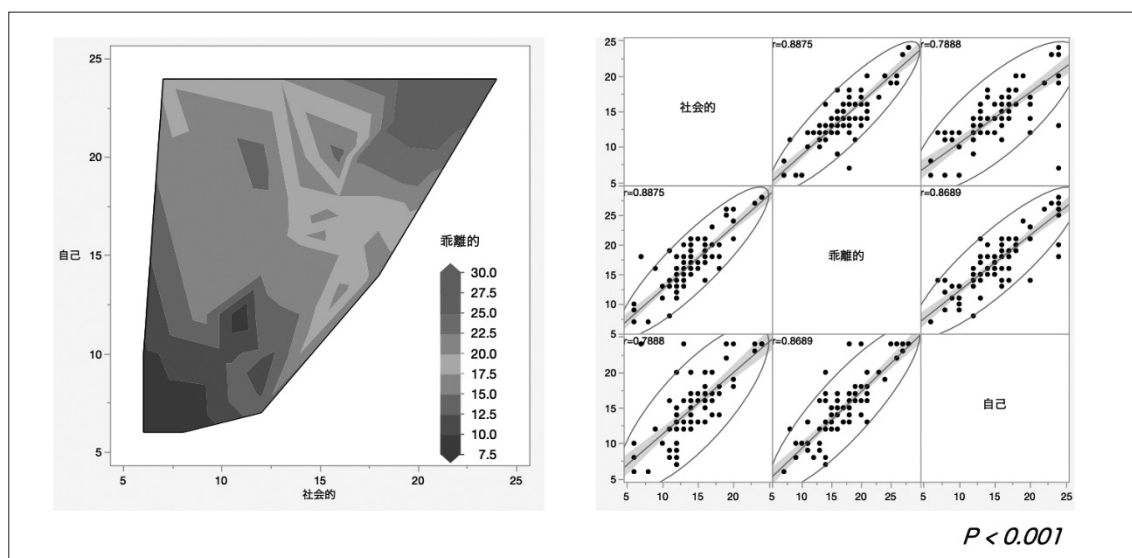


図3 三種のスティグマとの相関

また、「慢性腎不全」という病名が生活習慣病というネガティブな偏見を伴っていることも示された。これらの結果から、患者が病名に対して明確な心理的負担を感じていることが明らかとなった。

<考察>

本研究により、慢性腎不全患者が病名自体に強いスティグマを感じていることが明らかになった。これは治療効果や患者の生活の質（QOL）を低下させる可能性があると考えられる。糖尿病や精神疾患など、他疾患においても病名変更がスティグマ軽減に有効であることが報告されており³⁾⁴⁾、本研究の結果もそれらの報告を支持するものである。

本研究では匿名のアンケートサービスを利用しているため、実際に慢性腎不全に罹患していない症例が回答している可能性がある。対策としては回答の傾向や他のアンケートへの回答からデータクリーニングを行うサービスをオプションで利用する方法や実際の通院患者を対象にあらたに調査することが有用と考えられる。

また、自由回答欄から「疾患のことを周りの人に知ってほしい」との意見が散見され、スティグマの軽減には病名変更だけでなく、社会的啓発や医療者の意識改革も必要であることが示唆される。患者の心理的・社会的負担軽減のためには、「慢性腎不全」という病名の見直しを含めた総合的な社会的支援策が必要であることが示唆された。今後はさらに多施設間での協力を得て、より詳細なスティグマ評価と健康関連QOL（SF-36等）との関連性を評価することが求められる。

<結語>

慢性腎不全患者が病名に対してスティグマを感じており、病名変更を検討する必要性が示唆された。患者支援の観点から、病名に伴う負の印象を軽減する方策を検討することが望ましい。

<利益相反>

なし

<文献>

- 1) Jane Speight, Elizabeth Holmes-Truscott, Matthew Garza, et al. : Bringing an end to diabetes stigma and discrimination: an international consensus statement on evidence and recommendations. Lancet Diabetes Endocrinol 12 : 61-82, 2024.
- 2) Jessica L Browne, Adriana D Ventura, Kylie Mosely, et al. : Measuring the Stigma Surrounding Type 2 Diabetes: Development and Validation of the Type 2 Diabetes Stigma Assessment Scale (DSAS-2). Diabetes Care 39 : 2141-2148, 2016.
- 3) Samuel Akyirem, Emmanuel Ekpore, Diana Namumbejja Abwoye, et al. : Type 2 diabetes stigma and its association with clinical, psychological, and behavioral outcomes: A systematic review and meta-analysis. Diabetes Res Clin Pract. 202: 110774, 2023.
- 4) Ronda Embick, Mike Jackson, Rose Stewart. : The impact of stigma on the management of type 1 diabetes: A systematic review. Diabet Med 41 : e15299, 2024.